

平成29年度第1回 箱根町行財政運営を考える町民会議 暮らしグループ 結果概要

日 時：平成29年5月19日（金曜日）16：00～16：55

場 所：箱根町役場本庁舎4階 第2委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

安藤雅章委員、勝又 實委員、中村光章委員、酒寄繁基委員、高橋典之委員、
勝俣昌美委員

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

池島祥文准教授

〔町〕

對木総務部長、吉田朋正財務課長、辻満、海野

1 今後の議論の方向性（まとめ）

『豊かな自然を教育にも活かし、教育の充実を住民増加に繋げる。』

『コミュニティビジネスを育成し、地域社会の活性化と問題解決力の向上を図る』

『観光資源を活かし、生活の豊かさの向上を図る』

町の魅力である豊かな自然を活かし、箱根ならではの教育を充実させることが重要である。また、豊かな自然はIターン居住者の増加を促すことができる。交通－教育－生活と、問題点は相互に係わりをもつ。特に自動車の渋滞等交通面での問題点は、教育・生活・観光等に様々な影響を与える。

2 意見交換の概要

(1) 現在町が抱えている課題と長所について

①教育関係

- ・ 中学校卒業までの家庭への支援策は充実しているが、高校以降の支援は不十分。
- ・ 親が金銭的・時間的に余裕がなく子を塾に行かせられない等の理由により、子の学力が二極化している。

②交通関係

- ・国道一号線が頻繁に渋滞し、観光等に様々な影響が出る。
- ・湯本駅近辺には路上駐車が目立ち、交通の妨げになっている。横断歩道の補助員がいた時は交通の流れが良かった。
- ・バス代の負担が大きい。住民を優遇するための補助や料金体系が必要なのではないか。

③生活（買い物、医療、福祉など）

- ・医療や福祉の面でサポートが必要な一人暮らし高齢者が増加している。
- ・湯本近辺にはスーパーや商店がなく、生活用品購入のために小田原まで行く必要がある。一方で、仙石原や宮城野からは小田原までの所要時間が長い。

④住宅関係

- ・自然公園法により、住居建築に規制がかかる。
- ・町内者が就職等を機に転出し、町外での住宅取得により町に戻らなくなる。

⑤その他

- ・役場職員に町外者が多い。実際に住んで自ら問題に直面しないと、解決策は見えてこないのではないか。また、町外出身者の職員が箱根に愛着を持てるか疑問に感じる。

